

# 大分港修築計畫概要

(昭和九年五月)

## 緒言

本港ハ九州東海岸、國東半島及佐賀關岬トノ間ニ灣入セル別府灣ノ南岸ニ位シ豊後水道ニヨリ太平洋ニ通ズ。

其ノ位置内海ニ面スルヲ以テ、中國、四國、近畿諸地方ノ瀬戸内海ニ面スル各港ト九州トヲ直通連絡スルニ最モ好適ノ位置ニアリ、而モ三面ハ防波堤ニヨリ圍繞セラレ其ノ水面積約五十九「ヘクタール」、其内約二十三「ヘクタール」ハ水深三米三乃至七米六ヲ有シ、九州東海岸ニ於ケル屈指ノ良港タリ、殊ニ本港ハ阿蘇、久住山脈一帶無限ノ林産寶庫ヲ始メ豊饒ナル後方地域ヲ有シ、且鐵道ノ連絡モ至便ニシテ門司、大分宮崎ヲ通ズル日豊本線、熊本、大分ヲ通ズル豊肥線ノ外、久留米、大分ヲ通ズル久大

線モ近ク全通ノ運ビニ至ルベク港勢年ト共ニ進展シツ、アリ。

本港ハ永録、天正年間ニ既ニ九州探題大友宗麟ノ開始ニヨリ神宮寺浦ト稱シ、世界的貿易港トシテ殷盛ヲ極メタル史實アレド、爾來中絶シテ幾星霜ヲ經、其後地方有志ノ計畫ニヨリ大分港株式會社ノ事業トシテ明治十三年ヨリ同十五年ニ亘リ現在齒啓港ト稱スル舊港（小船溜）築造セラレ、尋テ縣營事業トシテ明治四十五年ヨリ大正五年ニ至ル五ケ年間ニ工費百四十二萬三千五百圓ヲ以テ新港築造セラレシガ、其ノ設備ハ防波堤ノ外、長八十二米ノ浮棧橋一箇及物揚場延長百四十六米ニ過ギズ、到底港勢ノ進展ニ順應スルコト能ハザルヲ以テ、茲ニ本修築計畫ノ樹立ヲ見ルニ至レリ。

## 計畫ノ大要

本港ハ大分縣ノ事業ヲ明治三十年法律第三十七號ニ基キ、内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ、其ノ計畫ノ大要左ノ如シ。

一 防波堤 西突堤ニ沿フ射流ヲ防ク爲メ、港内ノ西隅ニ延長九十一米ノ小波除堤ヲ築造ス。

二 岸 壁 港内ノ南西岸ヨリ大小二基ノ埠頭突堤ヲ出シ、其ノ周圍ニ延長七百三十六米水深六米五乃至七米三ノ繫船岸壁ヲ築造シ、三千噸級汽船二隻、二千噸級汽船四隻ヲ同時ニ繫留スルヲ得セシムルモノトス。

三 護 岸 南西岸タル倉庫地帯ノ沿岸ヲ整理シ、此所ニ延長五百三十米ノ護岸ヲ築造セントス。

四 浚 渫 港内ヲ別紙圖面ノ如ク水深六米五乃至七米三ニ浚渫シ、泊地面積ノ擴張ヲ計ラムトス。

五 埋 立 浚渫土砂ヲ利用シ、前記岸壁並ニ護岸ノ背後面積約五萬一千平方メートル立ツルモノトス。

六 其 他 現在ノ浮棧橋ヲ其ノ東方約百十米、前記埠頭突堤ノ中間ノ新設護岸

前面ニ移設スルモノトス。

## 工 費

本工事ハ總工費百九拾五萬圓（内國庫補助九拾參萬六千圓）ヲ以テ、昭和七年度以降全十四年度ニ至ル八ケ年ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ、工費年割額ハ左ノ如シ。

年 度	工 費	内	
		國 庫 補 助	縣 負 擔
昭 和 七 年 度	100,000 圓	100,000 圓	10,000 圓
同 八 年 度	100,000	100,000	100,000
同 九 年 度	100,000	100,000	100,000
同 十 年 度	100,000	100,000	100,000
同 十 一 年 度	100,000	100,000	100,000

同 十 二 年 度	100,000	100,000	100,000
同 十 三 年 度	100,000	100,000	100,000
同 十 四 年 度	100,000	100,000	100,000
計	1,000,000	900,000	1,010,000

昭和九年五月

# 内務省下關土木出張所

下關市東南部町七十八番地

印刷人 泉 菊 太郎

下關市西南部町百十五番地

印刷所 泉 菊 工場